

# BLOOMSBURY WALK No.2

- ロンドン大学本部棟
- ユニバーシティ・カレッジ
- UCL 界限

## ロンドン大学本部棟



徒歩にて大学まで通っているわけであるがだいたいこのルートを使っている。歩く度に味わいが出てくるのかなかの道のりであると私は考えている。International Hall(IH)を地下鉄駅へ向かうとそこは Bernard Street ということ。そして駅を左手に見ながら(改札はこの通りに面して一箇所のみ)進むと交差点にでる。右 Euston 方向が Woburn Place (正面赤い Royal Mail の看板が目立つ郵便局がコーナーにある)、左 Holborn 方向が Southampton Row、正面はラッセルスクエアになる。No.1 で紹介したラッセルホテルはこの交差点の左側に建っている。そのまま交差点を越えて真っ直ぐ進むと正面に巨大な白い建物(写真)が見えてくる。これがロンドン大学本部棟 Senate House である。この建物にはロンドン大学本部及びロンドン大学図書館、その他 UCL スラブ東欧学部などが入居している。私との関係は今のところ地下にあるロンドン大学住宅事務所と図書館くらいであろう。本部棟左が大英博物館になります。周辺にこの程度の高さのビルがないのでよく目立ちランドマークとなっています。夜間はライトアップされまたまた迫力があります。木曜日はこの本部棟の下を抜けて医学部 Middlesex Hospital の中にある講

義室まで出かけています。普段はラッセルスクエアを右に曲がって SOAS と教育研究所の間の女王即位 25 周年記念遊歩道 (Silver Jubilee Walkway) を通って Gordon Square と Church of Christ the King を抜けて UCL へ行きます。この辺の建物に絡まるツタが赤く色づいてきており肌寒さと併せて季節感があります。

## ユニバーシティ・カレッジ



私の住んでいる International Hall の位置からして正面 (Gower Street) から大学へ入ることは少ない。裏から入って振り向くと写真のような古典様式の建物が現れることになる。UCL はロンドン大学の中で最も古いカレッジで、その象徴になっているのが Wilkins (写真) という UCL メイン図書館である。英国において 3 番目に古くリベラルな思想によって 1826 年に The University of London として設立<sup>1</sup>され 1828 年に学生が入学した。当時からこの建物は存在している。不思議なのだがこの古典様式の正面に赤いお城のようなデザインの建物が建っている。この建物は Cruciform Building という名称で医学部が使用している。明治維新前後には長州及び薩摩藩から学生が UCL に留学していた記録がある。その関係なのか Wilkins の前にはソメ



イヨシノと思われる樹木が植えられている。

## UCL 界限

UCL は地下鉄駅、Euston, Euston Square, Goodge Street, Tottenham Court Road, Russell Square, King's Cross に囲まれた範囲に位置する。この辺り UCL をはじめ SOAS (School of Oriental and African Study ロンドン大学東洋アフリカ学部) Institute of Education (ロンドン大学教育研究所)、ロンドン大学熱帯医学・衛生大学など数多くの大学がこの地区にかたまっている。大学の施設の合間に種々のカフェ、印刷屋、本屋、古本屋など学生街には欠かせないお店がある。Senate House から Gower Street を横切るとそこは Store Street とという通りです。その名の通り、カフェ、食材屋、ニューススタンド、コピーショップ、レストラン、クーリエサ



ービスなど学生が必要としているほとんどのものが揃いそうな通りがある。その中に韓国食料品店があり、日本のお米や醤油など韓国食材と一緒に日本食材もおいてあった。(あ)

<sup>1</sup> Harte and North, The World of UCL 1828-1990, UCL, 1991